

「胃癌から教えられたこと」

—私を生きていきたいという深い願いに押し出されて—

「精密検査の結果、あなたは胃癌です。腹膜にも転移していますから手術はできません。抗癌剤で治療していくことになります」。今から2年1ヶ月ほど前、病院の先生からの宣告です。唯ショックで、「私がどうしてこんな苦しい目に会わなければならないのか」という怒りで一杯でした。それから入院治療を続けていく中で、「これからどうなるのだろう」、「どうしたらいいのだろう」という不安と焦りの心が湧いてきました。同じ部屋の患者さんとか、ふとしたことで知り合った患者さんたちと話をすることで、気持ちを紛わせていました。「ああ、同じような人がおられてよかった」とか、「まだ私の方が軽くてよかった」とかいう安心感を抱いたり、私より重い症状の人には、「辛いだろうな、気の毒に」という同情心まで起きていました。

ある時、私のお寺へお話にみえた先生に一部始終をお話ししました。先生は黙って聞いてみえましたが、最後に、「あなたは今の事実から目を背け、逃げていませんか。比較をすることで喜んだり悲しんだりしてはいませんか。仏さまは、そういう生き方を悲しまれるのです。はやく目覚めてください。自分の思いを立場としたあり方が砕かれ、迷いの心が破られていくことが真実の聞法の姿です。そのことに心の底から頷けたとき、念仏申す身にさせていただくことができるのです。」と言われました。

今でも、不安や焦りは全くなくなるとは言い切れませんが、お念仏の教え、真実なる教えに出遇うことができたことを喜ばずにはおれません。

合 掌